

## NPO 法人花山星空ネットワークの目指すもの

— 会報「あすとろん」創刊に寄せて —

黒河宏企（NPO 法人花山星空ネットワーク理事長）

お盆を前にしてやっと夏らしくなってきました。クーラーなしでどこまで我慢が出来るかの実験をしていますが、今年はお陰さまで記録を更新中です。

7月28日の第2回花山天体観望会のあと、「こども飛騨天文台自然体験教室」(8月4～6日)、「昼間の天体観測研修会(理科教員向け)」(8月7日)、「こども夏休み天体観測教室」(8月8日)と、いずれも第1回目の新しい事業を実施しましたが、会員の皆さんの熱心なボランティアのおかげで無事に終了しました。各イベントの速報がこの号にも載っていますが、いずれも参加者の満足度は高かったようで、このNPOの進むべき道筋の一端が、見えたような気がします。

古代エジプト人は今から5000年も前に、大犬座のシリウスと太陽の位置関係を観測して、1年が365日と1/4であることを既に知っていたと云われています。皆さんはどのようにして1年の長さを計ろうとするでしょうか？

ギリシャの大学者アリストテレスの天動説宇宙論は、2千年近くも世界の常識として君臨してきたわけですから、今小学4年生の40%が地動説より天動説を選んだということを知っても、なんら驚くことではないのかも知れません。それよりも、日の出日の入りを見たことのある高校生が15%しかいないというアンケートの方が驚くべきことかも知れません。太陽や月と一体となって生活していた農耕主体の昔と較べることで自体に無理があるのでしょうか。しかし、都会を離れた大自然の中で、ぽつんと一人でおおぞらを見上げる時、人々の胸によぎる思いは今も昔も、あまり変わらないのではないのでしょうか。天文宇宙の自然現象は、その壮大さと神秘的な美しさで、何千年もの昔から人々に畏れとあこがれの念を与え続けて来ました。このことは今もこれからも、あまり変わらないのではないのでしょうか。このNPOの目指すものは定款の中に詳しく書かれていますので、ここでは繰り返しません。「満天の星空の怖さや、次ページの写真のような日の出の新鮮な空気を一人でも多くの子ども達に感じて欲しい」。この思いがこのNPO活動に携わる私の原点であり、原動力です。



飛驒天文台から見た北アルプスの日の出

昨年の3月で京都大学を停年退職する際に、柴田天文台長さんから「花山天文台を市民に開放する NPO をやってもらえませんか？」と頼まれて、お引き受けすることにしました。

まずは名前を付けることから始めました。2ヶ月くらいの間にさまざまな案が出ましたが、最後ころに出てきた現在の名前が皆さんに自然に受け入れられて、ずっと決まりました。昨年の4月からいよいよ活動を開始しましたが、何を指すのか？何をやるのか？どの程度やるのか？手探りのスタートでした。まずはとにかく天体観望会をしながら、相談を重ねて行くことにしました。観望会の参加料は「1500円ではどうですか？」とか、正会員の会費は「5000円くらいですかね？」とか、呼びかけるたびに色々な意見が出て、一番難しいのはやはりお金の話でした。相談会には毎回数人の方々が集まっていたいただきましたが、幸いそのつど、新しい入会者が現れて次第に輪が広がって行きました。

半年くらいの間に数回会合を開いて、定款や役員顔ぶれも固まり、法人化申請の準備もやっと整いましたので、今年の1月29日にNPO 法人設立式典を京大会館で開催することが出来ました。総会には当時約70名の入会者の中から約50名の出席がありました。式典・祝賀会では、下の写真にもみられます様に、

尾池和夫京都大学総長、田原博明京都府教育長、北村雅夫京都大学大学院理学研究科長をはじめとした多くの来賓の方々から門出を祝っていただきました。

2月23日に法人申請書を京都府に提出しましたが、4ヵ月後の6月中旬にやっと、認可が下り、法務局への登記も終えて、6月末、正式にNPO法人となりました。7月末現在の会員数は正会員105名、順会員13名、賛助会員1名、3社となっています。いよいよこれから、活動を本格化させて行きたいと思いますので、会員の皆さんをはじめとした多くの方々のより一層のご参加とご支援をよろしくお願い致します。



NPO法人花山星空ネットワーク設立式典における尾池京大総長の祝辞

この会報も、編集長を引き受けていただいた作花さんを中心に6月ころから案が練られて来ましたが、今回創刊号を発行することが出来ました。名称は多くの提案の中から7月28日に開かれた相談会で選ばれたものです。ギリシャ語の *áastron* は星とか天文という意味で、英語の *astro-*の語源です。語感も良いので、すぐ覚えてもらえるのではないかと思います。きれいな表紙のデザインは前田さんが作っていただいたものです。表紙に負けないように、皆さんどしどし投稿していただいて、すばらしい会報に育てていただくようお願いいたします。